

玉名荒尾教頭会活動報告

玉名市立滑石小学校

山口 伸一

1 はじめに

玉名荒尾教頭会は、玉名市、荒尾市、玉東町和水町、南関町、長洲町の2市4町の37小学校と15中学校（教頭数52人）で組織されている。

各市町教頭会での独自の活動も大切にしながら、教育上の諸問題に対応するための資質向上を図るべく、お互いに連携を図りながら取組を進めている。

2 役員組織

(1) 玉名荒尾教頭会

会長	山口 伸一	(滑石小)
副会長	大丸 廣幸	(築山小)
副会長	前田 美幸	(玉陵小)
庶務会計	立野 健一	(荒尾海陽中)
〃	中原 孝文	(三加和中)
研修部	塩山 浩人	(長洲清里小)
研究委員	中島 高義	(豊水小)
副研究委員	柴田 信孝	(玉東中)
教育振興部	村岡 英治	(南関第二小)
〃	園田 仁	(万田小)
会計監査	小田 博臣	(大野小)
〃	前田 哲也	(高道小)

(2) 県教頭会関係

理事	山口 伸一	(滑石小)
研究委員	中島 高義	(豊水小)
日本教育会評議員	大丸 廣幸	(築山小)

3 本年度の活動

(1) 令和4年7月28日(木)

玉名荒尾教頭会夏季研修会

演題「教頭職は、『マネジメント』が仕事」

講師：玉名教育事務所

所長 丹生 伸二 氏

- ・教頭職について
- ・「何を」ではない。「いかに」が仕事であ

る

- ・「前向きな思考」が「いい仕事」を生む。
気持ち一つで、集団は前進も後進もする

- ・校長に働きかけ、学校を創造する

○教頭としての意識改革が必要であり、10年先を見通しておくことが必要である。そのために、ゴールを明確にし、職員のよさを活かしていくこと。校長に働きかけ、学校を想像するマネジャーとして動いていくことが重要であることを学ぶことができた。

(2) 令和4年10月19日(水)

玉名荒尾教頭会自主研修会

演題「『役に立つこと』を意識して」

講師：学校支援等アドバイザー

元築山小校長 隈部 修一 氏

- ・危機管理のさしすせそ
- ・社会生活につなげる
- ・学校経営について

○「役に立つ」ということは、役職の責任を果たすことである。それに、「心は言葉で創られる」ということから、温かい言葉かけをすることで、職員集団のモチベーションをアップさせることを学ぶことができた。

また、学校の中には、「見えるもの」「見えないもの」「残るもの」「残らないもの」があり、それを意識して、職員や児童生徒へ方向性を示す大切さを学ぶことができた研修となった。

4 おわりに

新型コロナウイルス感染症の影響によって、今年度も中止となった活動はあるものの、試行錯誤しながら、極力実施してきた。

研修等を通して、自らの資質向上・人格向上を図るとともに、学び続ける職員集団でつくるのが大切である。さらに、教頭同士の連携・協力を図りながら、人材育成から人材活用に向けて計画的に組織として取り組んでいかなければならない。そこに、明確なビジョンと一人一人の意識改革が必要であると考えている。